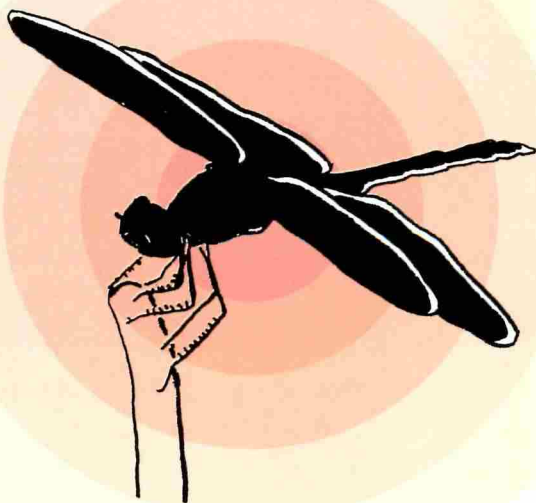


2. トンボのなかま

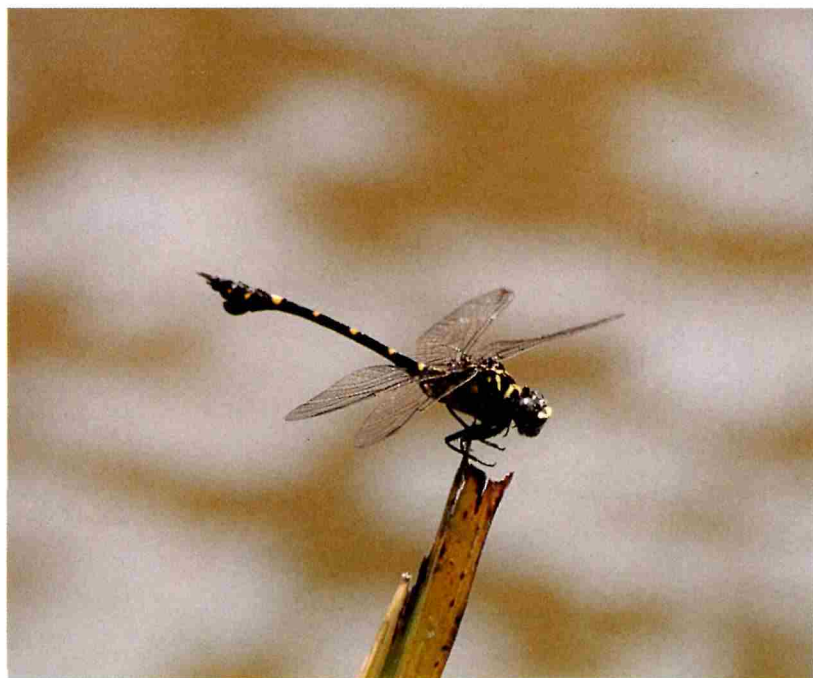


大きさ（体長）

頭の先から尾の先までの長さ

台湾ウチワヤンマ (サナエトンボ科)

●よく見られる時期 5月～9月 ●大きさ 70mm



池や沼、水田などで見られます。メス、オスともに尾の先の方にうちわのような突起とつきを持っているのが特徴とくちょうです。ウチワヤンマは青森県をのぞく本州に分布しているのに対して、台湾ウチワヤンマは、四国以南の分布とされてきました。しかし、1992年に服部緑地の池で確認されました。尾部のうちわ状の黒い突起とつきの基部きぶに黄色の部分があるのがウチワヤンマで、突起全体が黒いのが台湾ウチワヤンマです。

オニヤンマ (オニヤンマ科)

●よく見られる時期 6月～9月 ●大きさ 95～100mm



平地から山地にかけての小川などで見られます。日本にいるトンボの中では、一番大きなトンボです。緑色の美しい複眼^{ふくがん}が、一点で接していることで他のトンボと区別できます。メスはオスより大きく、産卵管^{さんらんかん}が尾端^{びたん}より長く伸びています。豊中^{とよなか}でも、以前は小川沿い^とをパトロールしている姿をよく見かけました。しかし、最近、オニヤンマが産卵できるような川^せがなくなり、その姿を見ることがほとんどありません。

ギンヤンマ (ヤンマ科)

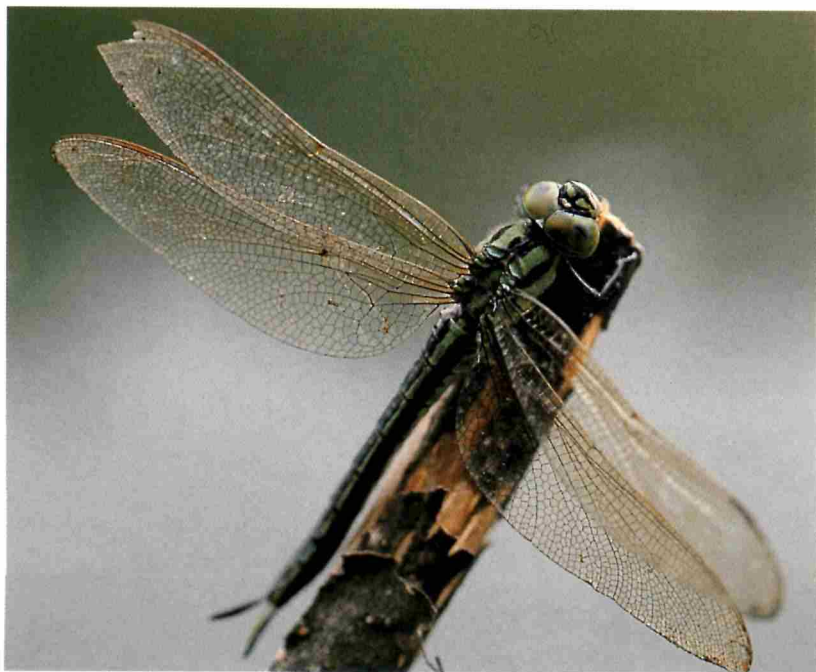
●よく見られる時期 5月～9月 ●大きさ 70～75mm



池や沼でよく見ることができます。複眼と胸が黄緑色をしています。メスの腹の胸に近い部分は胸と同じ色をしています。オスはあざやかな水色をしています。オスはなわばりを持ち、水面上を往ったり来たりしてパトロールします。大型のトンボにはめずらしく、雌雄が連結したまま、水面の植物の茎に産卵します。豊中では、服部緑地の池や羽鷹池などでもよく見られます。

アオヤンマ (ヤンマ科)

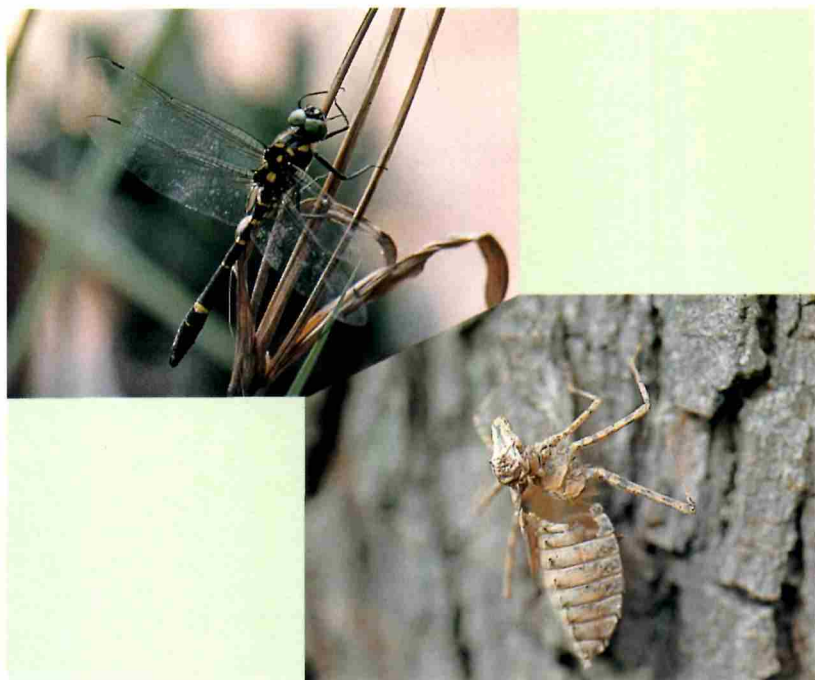
●よく見られる時期 5月～8月 ●大きさ 約70mm



体が黄緑色の美しい色をしているヤンマです。ヨシやマコモのよく茂った池にすみますが、池の改修で全国的に数が減りました。豊中でも数は少なく、なかなか見られない、めずらしいなかまで。

オオヤマトンボ (エゾトンボ科)

●よく見られる時期 5月～9月 ●大きさ 約80mm



ヤマトンボの名前に似合わず、豊中でも緑地公園などの池のふちをオスがパトロールしている姿をよく見かけます。

ヤマトンボのなかまは大型で、^{どうたい}胴体の色はオニヤンマに似ていますが、黒色部に^{きんりょく}金緑色のつやがあります。

成虫は似ていますがヤゴの形はオニヤンマと全然違い、幼虫の体は平たく、長い脚^{あし}をしています。池から3mほどもはなれた木まではい上がり、羽化^{うか}した殻^{から}がありました。

アカトンボのなかま



ナツアカネ



アキアカネ



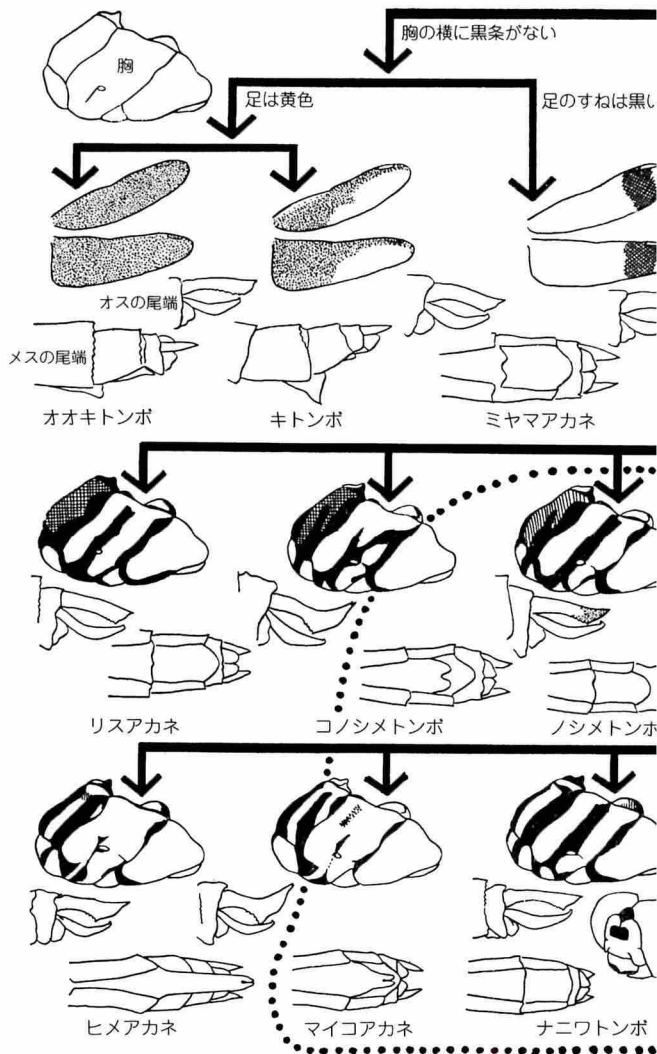
マユタテアカネ

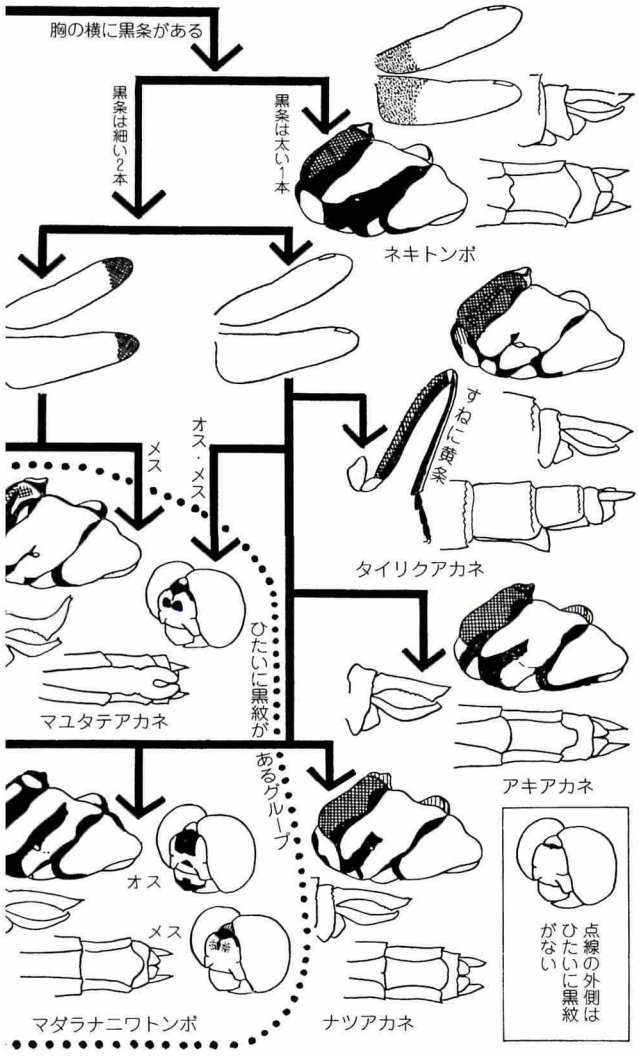


ノシメトンボ

アカトンボのなかまは見分け方がとてもむずかしく、慣れないと、どれも同じように見えてしまいます。つかまえて、次の検索表けんさくひょうを参考にして特徴とくちょうを調べていくと、名前を知ることができます。

赤トンボの検索表 (日浦 勇)





イトトンボのなかま

●よく見られる時期 4月～9月



イトトンボのなかまの特徴は、^{とくちょう}前翅と^{ぜんし こうし}後翅がほぼ同じ形をしている、体が細い、^{ふくがん}複眼が左右にはなれている、止まっている時、ほとんどの場合、^{はね}翅を閉じていることです。

このなかまの見分け方は、赤トンボのなかま以上に^{こま}細かな点にまで注意が必要で、大変むずかしいです。上の写真は、豊中で、最もふつうに見られるアオモンイトトンボで、水たまりや池の浅いところが好きです。



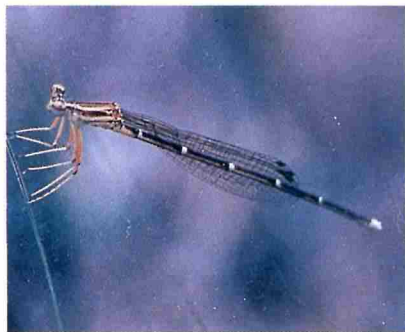
ホソミオツネントンボ



アオイトトンボ



オオアオイトトンボ



モノサシトンボ



ベニイトトンボ



クロイトトンボ

ショウジョウトンボ (トンボ科)

●よく見られる時期 5月～9月 ●大きさ 45～50mm



平地や丘陵地の池や沼、水田などで見られます。オスは成熟すると、とてもあざやかな赤色の体になります。メスと未成熟のオスの体の色はだいたい色をしています。翅も、成熟前のものではうすい黄色を帯びただいたい色をしています。しかし、翅は成熟するのにもない、オスでは基部だけが赤くなり、翅の大部分は透明になります。メスは基部と前縁部のみに色が残るだけです。

ウスバキトンボ (トンボ科)

●よく見られる時期 7月～10月 ●大きさ 40～45mm



トンボ

大阪では5月以降に見られるようになります。南の暖かい島では年中見られるそうです。このトンボは暖かくなると北上し、8・9月には北海道でも見られるそうです。腹は淡い^{あわ}だいたい色で、細い黒色のすじがあります。^{はね}翅の基部も体と同じような色です。おもに平地や^{きゅうりょうち}丘陵地の池や沼や水田、学校のプールなどにも産卵することがありますが、冬は越せません。

シオカラトンボ (トンボ科)

●よく見られる時期 4月～10月 ●大きさ 50～55mm

トンボ



(オス)



(メス)



池や沼、水田、学校のプールなどでよく見られます。^{せいじめく}成熟したオスは、体が黒くなり、白い粉でおおわれて青白く見えるようになります。メスはほとんどの場合、体の色は変わらず、ムギワラのような色をしています。オスも未成熟な時は、メスと同じ色をしています。だから、メスや若いオスはムギワラトンボと呼ばれることがあります。

オオシオカラトンボ (トンボ科)

●よく見られる時期 5月～9月 ●大きさ 50～57mm



(オス)



(メス)

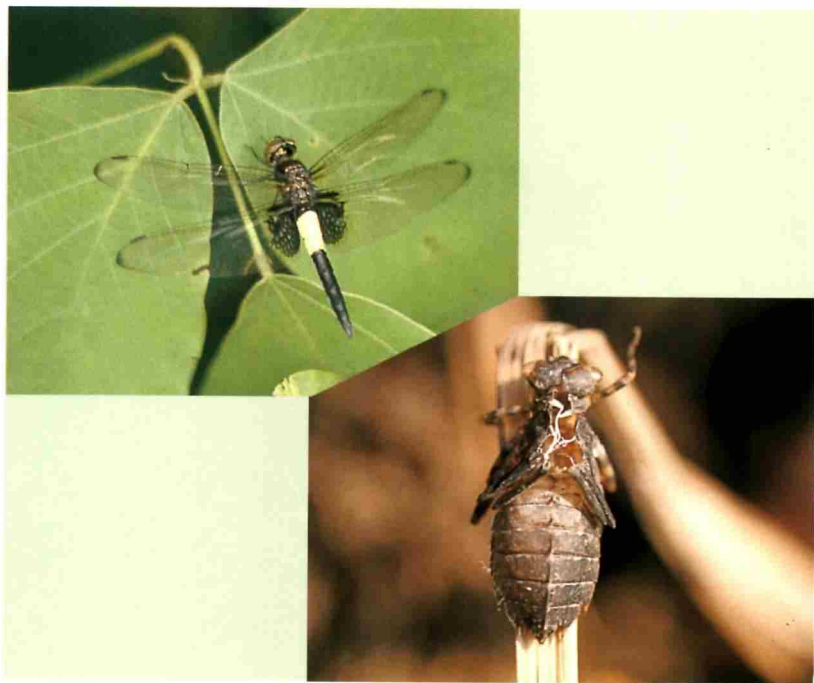


夏に池や沼、水田などで見られますが、シオカラトンボほど多くはありません。シオカラトンボによく似ていますので、よく見ないとまちがえることがあります。シオカラトンボとのちがいは、^{はね}翅の^{きぶ}基部が黒くなっていることと、メスや若いオスの黄色の体に黒いはっきりしたすじがあることです。

コシアキトンボ (トンボ科)

●よく見られる時期 6月～9月 ●大きさ 40～45mm

トンボ

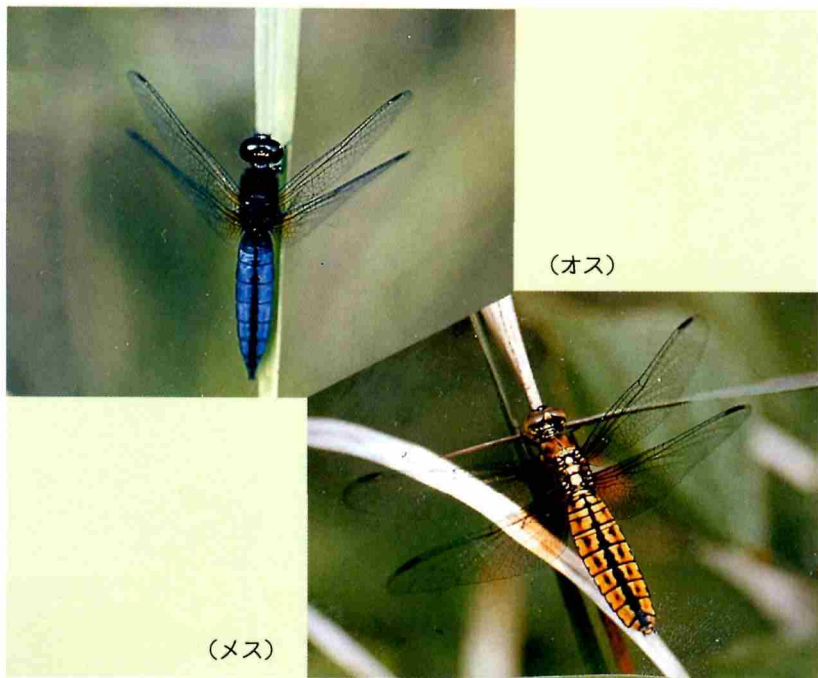


豊中の川や池、林などで普通に見られます。名前は腰明きトンボで腰の部分にある黄白色おうはくしよくもようの模様からきています。幼虫は林に囲まれた池に育ち、成虫は林のふちを好みます。夏の初め、オスは成熟せいじゅくすると腰の色が黄色から白色に変わって池にもどり、繁殖はんしよく行動に移ります。池のふちになわばりを決め、飛んでくるメスを待ちます。

オスどうしが出会うと激しい争いはせずに、出会った二匹どうしが勢いよく上空に向かって飛び、折り返し点からどちらが早く水面にもどるかで勝負を決めます。

ハラビロトンボ (トンボ科)

●よく見られる時期 4月～9月 ●大きさ 約32mm



(オス)

(メス)

名前のように、腹の部分が胸より広いのが特徴です。池のまわりや湿地など植物が密に生える水辺を好みます。オスの体は成熟すると、シオカラトンボのように白い粉でおおわれます。

コフキトンボ (トンボ科)

●よく見られる時期 6月～8月 ●大きさ 約40mm



アシや水草の多い平地の池で見られ、水の汚い池でも生きていけます。シオカラトンボより1まわり小さなトンボです。オスの体は成熟すると、シせいじゅくオカラトンボのように白い粉でおおわれます。

チョウトンボ (トンボ科)

●よく見られる時期 6月～8月 ●大きさ 約35mm



トンボ

アシや水草のしげる池、とくにヒシなどの浮葉植物のある池にはよく見られます。あまりはげしく動きまわらず、ゆったりと蝶のように飛ぶ姿からこの名前がつけられました。

翅は、光のあたりぐあいで、青や紫色にかがやいて見えます。

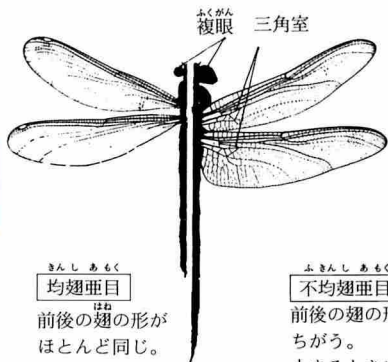
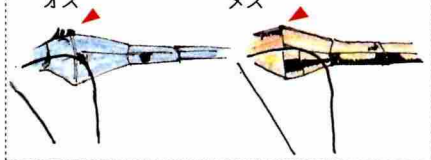
トンボの見分け方

オス・メスの区別

オスのトンボの腹の付け根には、精子を移し、一時貯めておく副生殖器（交接器）がある。

オス

メス



トンボ

きんし あらく

均翅亜目

前後の翅の形がほとんど同じ。



止まるときは、翅を閉じて止まることが多い。

ふきんし あらく

不均翅亜目

前後の翅の形がちがう。止まるときは、翅を開いて止まる。



複眼が一点で接する。



オニヤンマ

複眼が離れる。



サナエトンボ科

複眼が広く接する。



三角室が外を向く。 三角室の向きが違う。



ヤンマ科

トンボ科
エゾトンボ科

イトトンボのなかま
カワトンボのなかま
ムカシトンボ